

主体的・発展的な自学自習で育む達成感

保健体育 保健・第2学年
石川県立穴水高等学校・教諭

1 事例の概要

生涯にわたって「運動に親しむ」そして「自己の生活の中に運動を取り込む」生徒を育てようとする時に、我々は体育の授業を通して、楽しさや喜びを味わわせることに力を置くが、保健の授業を通して、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現していくための基礎を培うことも重要である。さらに、自ら設定したテーマに基づいた課題解決学習は、前向きな気持ちや粘り強く物事に取り組む意欲を育み「確かな学力」を身につけていくことに寄与し、進んで健康を保持増進しようとする基本的な姿勢の確立へ結びつくと考えられる。

そこで例年、自分の興味・関心に基づいてテーマを設定し、放課後や夏休みに学校や町の図書館を利用しながら、レポート（書式用紙30枚以上）を作成している。この作業は授業とは別の時間に行ない、自らの課題学習の内容を深化拡大しながら、主体的で発展的な自学自習の機会とし、自らのライフスタイルに良好な影響を与えることを期待している。

なお、本実践の最終場面では、11月3日の文化の日に開催される本校学園祭、穴水町の町民文化祭、隣接する石川職業能力開発短期大学祭の合同文化祭での展示発表により、800人近くの地域の人達に作品を見ていただくことができた。

A-1 研究テーマ

2 実践内容

(1) 項目の目標

- 健康の保持増進に必要な事柄について関心を持ち、資料を収集しながら課題を見つけ、意見交換しながら意欲的に学習しようとしている。（関心・意欲・態度）
- 健康の保持増進に必要な事柄について、これまでの体験や資料などを基に、他の人の意見や考えなどを聞く中で、課題の設定や解決の方法を考え・判断できる（思考・判断）
- 健康を保持増進するためには、適切な生活行動を選び、実践することが必要であることを理解し、個人及び社会生活の健康や安全についての知識を身に付けている。（知識・理解）

(2) 指導上の工夫点

- ① 学びの姿勢として具体的に示していること。

「考える」

- ・自分のこれまでの体験や学習などをもとにして考える
- ・目標をイメージさせ、どのレベルまで達成できるか考える
- ・目標に到達するための計画を考えさせる

「工夫する」

- ・効果的な表現法を模索する
- ・仲間と話し合い、教え合う中から解決する
- ・教師に対しても積極的にアドバイスを求める

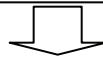
- ② ワークシート（自己評価・他者評価の欄を設けた）を活用し、それぞれのテーマに応じた個別の質問を与える。それらを考査範囲に含め、学習の定着化を図り理解度を確認する。

B-1 指導上の工夫点

3 指導の実際

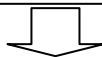
(1) 生徒への事前説明（1時間）

- ①課題研究を行う意義
- ②発表の可否の確認
- ③作業の流れの説明
- ④課題テーマの精選
- ⑤過去の作品の鑑賞



(2) 各自の取り組み（放課後・夏休み等で個人差有り）

- ①全ての生徒の取り組み状態を確認する
- ②より効果的な表現・表記法を与える
- ③構成に戸惑っている生徒には早期に対処させ、流れを修正する



(3) 確認（3時間）

- ①作品内容の説明を受け点検する
- ②表紙等の作成を指導する
- ③発表と教師による補足を行う
- ④ダイジェストの作成を指導する

(4) 展示発表

- ①多くの地域の人達に見てもらう
- ②アンケートの実施（展示会場の見学者に優秀作品の投票・感想等）



(5) まとめ

展示発表後の最初の授業でアンケートの実施（自己評価や授業方法についての意見・感想等）

C-1 指導案

C-2 生徒作品（レポート）

C-3 生徒作品（ダイジェスト）

4 成果と課題

(1) 成果

- ・身近で興味・関心の高い、自ら選んだ研究に取り組むことにより、意欲を持ち続けることができた。作業は授業外の時間におこなわれるため、教師に対しての質問の仕方やアドバイスの求め方に工夫がみられ、生徒の積極的な学習への取り組み姿勢を引き出すことができた。
- ・学校祭での展示発表により、学校長や他教科の先生方、地域の人たちから発表内容や発表方法への賞賛が伝えられ、大きな成就感を味わえた。生徒達の振り返りには、その喜びだけでなく「・・・に苦労したけど・・・。」という感想が多かったように、困難を克服し完成させ、発表することができたという自信は、大きな財産となった。
- ・生徒の活動の様子を観察しながら、技能面でのつまずきを具体的に把握し、教師による個別で細かなヒントを与えることができた。その結果、すべての生徒が自分の活動を振り返り、進捗状況や完成度を高める具体的な手だてを、見つけることができた。

(2) 課題

- ・課題研究の意義には深い手応えを感じるが、学習活動を発表する機会を学校祭の中でも持つためには、発表方法に工夫が必要であり、そのための改善を図っていきたくと考えている。
- ・これらの取り組みが、生徒たちの確かな学力を身につけることに寄与しているが、授業以外での活動が多く、どの場面で何を評価するかという評価計画を作成することが難しく、項目の目標と合わせて検討しなくてはならないと考えている。
- ・教育活動全体へと広げていけるようにするためにも、他教科との連携を図りながら取り組んでいきたいと考えている。